

Manley VOXBOX Channel Strip

究極のオールチューブ・ボーカルチャンネルストリップのエミュレーション

人間の声は最初に出た最もナチュラルな楽器です。そしてそれは最も表現力豊かでもあります。Manley の VOXBOX は、ハイエンドブレンド、チューブドライブ回路をハンドメイドで製造されています。すべての重要なボーカルソースのために特別に設計された、美しく進化したシステムです。

Universal Audio は、UAD-2 ハードウェアと Apollo インターフェイス用の「Manley VOXBOX Channel Strip プラグイン」を発売することを誇りに思っています。UA の革新的な Unison™ テクノロジーを搭載した「Manley VOXBOX Channel Strip プラグイン」は、他に類を見ないボーカル専用のチャンネルストリップのエミュレーションです。

Now You Can:

- Manley の Hi-Fi、クラス A チューブ・マイクプリアンプによってリアルタイムにリッチで豪華なボーカルをトラッキング可能
- 33 種類の選択可能な周波数を持つ Manley の Pultec スタイル・パッシブ EQ でボーカルを簡単に仕上げ
- 5 種類のアタック&リリースの組み合わせを選べる透明度の高いオプティカル・コンプレッサー
- ベース、アコースティックギター、ボーカルなど、多くのソースに最適なクラス A EQ とコンプレッション
- 有機的に歯擦音を抑える、比類なきディエッサー/リミッター・セクション
- Apollo インターフェイスの Unison™ テクノロジーを使用してダイレクトに VOXBOX プラグインのゲインステージやインピーダンスをコントロール

フードの下

1997 年に発売された Manley VOXBOX は、ハイファイ・チューブマイクプリアンプ、vactrol オプティカル・コンプレッサー、Pultec スタイルのパッシブ EQ とディエッサー/リミッターを含む Manley のオーディオ・デザインの最高峰を 3U ラックにパッケージしています。社内でワイヤリングされたトランスを含む Manley の伝説的なブティック・ハンドメイドクオリティを特徴とした VOXBOX は、ボーカルトラックのためのプレミアム・チューブツールボックスとして認識されています。

最高水準のマイクプリアンプによってシグナルを送る

余裕のあるヘッドルームとクラス A のチューブが特長の Manley VOXBOX Channel Strip プラグインは、ハードウェアのリッチなフィードバック・スタイルのマイクプリアンプをエミュレートしています。VOXBOX のプリアンプは、60dB ものゲインでマイクのコレクションにさらなるバリエーションを与えます。

す。

プリアンプの前にソースをコンプレッション

ハードウェアのように Manley VOXBOX プラグインを使用するだけで、その完璧にチューニングされたフレキシブルなオプティカル・コンプレッサーは、プリアンプの前でトランジェントを抑えることができます。この革新的なトポロジーと同様に、25 通りのコンプレッサーのアタック&リリースの組み合わせは、非常にスムーズなサウンド・トラックを確保します。

比類なきパッシブ EQ での仕上げ

Manley VOXBOX Channel Strip プラグインの 3 バンド、パッシブ EQ は、有名な Pultec MEQ-5 に基づいて設計されています。2 ピーク・バンド、1 ディップ・バンド、そして大幅に拡大しオーバーラップした周波数セクション、幅広いストロークの EQ は、トップエンドをスイートに、ボトムはタイトに仕上げます。極端なブースト&カットを行っても自然なサウンドは失われません。

超透明なディエッサーなど...

Manley VOXBOX プラグインは、ハードウェアが持つ“秘密のソース”を的確にモデリングしています。2 つのノブを使用するだけで、ボーカルだけでなく、シャープなエレキギター、や過度にブライトなオーバーヘッドにも有効です。また、ディエッサーの周波数コントロールをオフにしてアグレッシブなリミッターとしてこのセクションを使用することも可能です。

ボーカル用だけではありません

何年もの間、Manley VOXBOX は、そのハイエンド・チューブシグナルパスとスムーズな EQ とコンプレッションを活用してベーシストの秘密兵器にもなっています。常に音楽的な結果が得られ、どんなソースのトラックのクオリティも上げることができます。エンジニアは、クリーンなエレキギター、ストリングス、ドラムにも Manley VOXBOX を使用することがあります。

Apollo インターフェイス用の Unison™ テクノロジー

UA の画期的な Unison テクノロジーを活かし、VOXBOX プラグインは、ハードウェアのインピーダンスやゲインステージ、回路の挙動をキャプチャーし、今日使用可能な最も特徴的なチャンネルストリップになりました。

その秘密は、プラグインから Apollo のオーディオインターフェイスのプリアンプをデジタル・コントロールする Unison の双方向コントロール & コミュニケーションです。



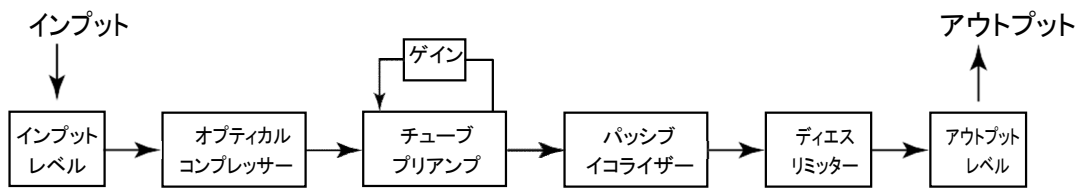
Manley VOXBOX Channel Strip インターフェイス

操作について

このセクションでは、VOXBOX の操作コンセプトの概要を説明します。個々のコントロールの詳細については、この章の後半にある“Manley VOXBOX のコントロール”を参照してください。

シグナルフロー

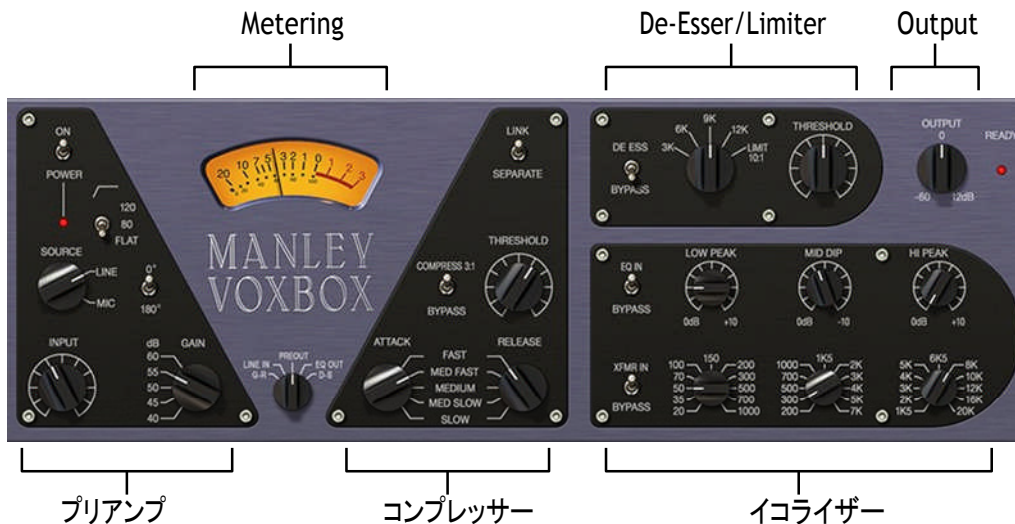
プラグイン内のシグナルフローの簡略図を下記に示します。このシグナルフローを理解することで予測可能な結果を得られるようになります。その他のチャンネルストリップとは異なり、コンプレッサー・コントロールがプリアンプの前に配置されていますが、コンプレッサーのコントロールは、インターフェイスのプリアンプ・コントロールの右に配置されています。



VOXBOX のシグナルフロー

コントロール・グループ

下の写真にあるように、プロセッサの機能によって関連付けられたコントロールがグループ핑され配置されています。トランスのアウトプット・オプション (XFMR switch) は例外です。トランスオプション・スイッチは EQ コントロール・セクションに配置されていますが、サーキット内でトランスは他のすべてのサーキットの後に配置されています。



VOXBOX インターフェイスのコントロール・グループ

コンプレッサー

VOXBOX コンプレッサーは、最小限のコンポーネントを備えたパッシブ・オプトアイソレーターキットをベースにしています。オプトアイソレーターは、オーディオ・シグナルと共に使用すると音楽的に魅力的なダイナミクス・レスポンス特性を提供します。(Universal Audio の人気のある LA-2A コンプレッサーは、オプトアイソレーターをベースにしています)

オプト・アイソレーターは、測定不能な歪みやノイズを加えることなく、0.1dB のインサージョン・ロスを与えるだけです。Manley の全パッシブ・キットとプリアンプ・キットの前段にあるコンプレッサーの配置は、シグナルがコンプレッションされていても、非常に低ノイズで動作を行います。

コンプレッション・レシオはプログラムに依存、そして非線形ですが、VCA ベースのコンプレッサーと比較すると 3:1 程度のレシオに相当します。このコンプレッサーは、プリアンプの前に置かれているため、従来のメイクアップ・コントロールはありません。インプット、ゲイン、スレッシュホールド、アウトプット・コントロールを調整して補正することができます。

コンプレッサーで発生するゲインリダクション量は、VU メーターに表示させることができます。

プリアンプ

VOXBOX のプリアンプは、すべてのチューブアンプをゲインに使用することが可能です。インプット・コントロールは最初の“クリーンな”インプットレベル・コントロールであることに注意してください。ゲイン・コントロールは、シンプルに増幅量をコントロールするだけでなく、プリアンプ・キット内のネガティブ・フィードバックを調整します。

ゲインに加え、ネガティブ・フィードバックは、トランジェント特性、ハーモニック構造、クリッピングやその他の音響特性にも影響を与えます。このようにゲインは、通常はカラー・コントロールとして使用され、インプット/アウトプット・コントロールでシグナルレベルを調整することができます。

イコライザー

VOXBOX の EQ は Pultec MEQ-5 midrange equalizer をベースにしています。Manley は、MEQ-5 の機能をフルレンジ・ソニックのコントロールができるよう周波数帯域を拡張しました。

3 つの EQ バンドがあり、それぞれ 11 の選択可能な中心周波数があります。低域と高域は、最大 10dB のブーストを提供し、ミッドレンジは、最大 10dB のカットを提供します。

EQ キットは、100%パッシブです。各 EQ バンドには、1 つのコンデンサー、1 つのインダクター、1 本のコンダクティブ・プラスチックポット、オーディオ・パスのゴールド・コンタクトスイッチが含まれています。EQ キットには、チューブ、トランジスタ、またその他のアクティブ・コンポーネントはありません。

ディエッサー/リミッター

2 番目のオプト・アイソレーターが EQ キットの後ろに配置されています。パ四分・ノッチフィルターをリミッターのダイナミクス・コントロールのサイドチェーンに適用すると、ディエッシング機能を有効にし、シビランス・コントロールを行うことができます。

サイドチェインのノッチフィルターは、4つのシビランス周波数を選択可能です。ディエッサーをセカンド・リミッターとして使用するには、サイドチェイン・フィルタリングを無効にすることで行えます。スレッシュホールドは、ディエッシング、またはリミット量をコントロールします。

リミッターはコンプレッション・レシオが 10:1(このレシオは、プログラムに多少依存します)、そして最大 20 dB までのリミットが可能です。ディエッサーで発生するゲインリダクション量は、VU メーターに表示させることができます。

マークされていないコントロール

一部のコントロールは連続しており、(DAW でサポートされている場合)コントロール・モードで表示する時、0~10 のレンジを持ちます。オリジナルのハードウェアと同様にこれらのコントロールは、絶対値でマークされておらず、あらかじめ定義された値を選択するのではなく、耳で設定するように設計されています。

アーティスト・プリセット

プラグインには、著名な VOXBOX ユーザーが作成したアーティスト・プリセットが含まれています。アーティスト・プリセットはファクトリー・バンクに保存され、ホストアプリケーションのプリセット・メニューからアクセスすることができます。これらは、ディスクにインストールされているため、UAD ツールバー(UAD システム・マニュアルの“UAD パワードプラグインを使用する”を参照)の“Settings”メニュー、または Apollo の Console2 プリセット・マネージャーからアクセスすることができます。



Manley VOXBOX Channel Strip のコントロール

プリアンプのコントロール

ソース

ソース・ロータリスイッチは、インプットシグナル用のアッテネーション・パッドを提供します。MIC に設定するとインプットシグナルはアッテネーションされません。LINE に設定すると約 4dB アッテネーションされます。

ヒント: LINE、または MIC のテキストラベルをクリックしてソースを選択することも可能です。

Apollo Unison のインタラクション

プラグインが、Apollo の Console アプリケーション内のプリアンプ専用の Unison インサートで使用されると以下のような動作が適用されます。:

- SOURCE スイッチは、Apollo プリアンプチャンネルの MIC と LINE のハードウェアインプットを切替え、Apollo のハードウェアインプット・スイッチを使用して同じ機能を実行させることも可能です。
- Apollo の Hi-Z インプットに接続されていると、SOURCE は自動的に無効になり、スイッチは使用できなくなります。

ローカット

ローカット(ハイパス)フィルターは、Mic、LINE、Hi-Z インプットで 3 ポジションで使用可能です。選択可能なカットオフ値は、120 Hz(上)、80 Hz(中)です。FLAT(下)に設定するとフィルターはバイパスされます。

ローカット・フィルターは、フェイズシフトが最小に抑えられ、6dB/オクターブのスロープを持ちます。ローカットは、通常インプットシグナルからのもたつた音やその他の望ましくない低周波数帯のサウンドを取り除くためにしようされます。

ヒント: 120/80/FLAT のテキストラベルをクリックしてフィルター値を選択することも可能です。

Apollo Unison インタラクション

プラグインが、Apollo の Console アプリケーション内のプリアンプ専用の Unison インサートで使用されると以下のような動作が適用されます。:

- Apollo のハードウェア・フィルタースイッチを使用してこのパラメーターを切り替えることが可能です。
- Apollo のハードウェア・スイッチでローカット・フィルターを切り替えると。プラグインで以前に設定した周波数が使用されます。

極性

極性スイッチは、Mic、LINE、Hi-Z インプットに影響を与えます。0° (上)ポジションではインプット・シグナルの極性はノーマルです。180° (下)ポジションにある場合、シグナルの極性が反転します。

極性の反転は、1つのソースを複数のマイクを使用してレコーディングする際に起こりやすいフェイズキャンセルを軽減するために役立ちます。

ヒント: テキストラベルをクリックすると目的の設定を選択することができます。

Apollo Unison インタラクション

プラグインが、Apollo の Console アプリケーション内のプリアンプ専用の Unison インサートで使用されると以下のような動作が適用されます。:

- Apollo のハードウェア・ポラリティ(極性)スイッチを使用してこのパラメーターを切り替えることができます。

INPUT

インプットはプラグインへのインプットのメインレベル・コントロールです。コンプレッサーとプリアンプの前のシグナルを減衰させます。

使用可能な範囲は、0~10 ですが、値は任意です。ノブを反時計周りに回すとシグナル・レベルを下げるすることができます。

Apollo Unison インタラクション

プラグインが、Apollo の Console アプリケーション内のプリアンプ専用の Unison インサートで使用されると以下のような動作が適用されます。:

- Apollo のハードウェアプリアンプ・ノブを使ってこのパラメーターを調整することができます。
- Apollo が Unison ゲインステージ・モードになっている場合、オレンジ色のドットがこのパラメーター上に表示され、ハードウェア・コントロールを使用可能であることを示します。詳細については、Apollo ソフトウェアマニュアルの“Unison”の章を参照してください。

GAIN

5 ポジション・スイッチは、マイク・プリアンプのネガティブ・フィードバック長を設定します(パッド、またはシンプルなゲイン・コントロールではありません)。ネガティブ・フィードバックは、トランジェント・レスポンス、ハーモニック・ストラクチャー、クリッピング、やプリアンプのその他の特性に影響します。それは通常、トーン・コントロールのようなものとしても使用されます。

ゲイン値は、40、45、50、55、60 dB を使用可能です。

ヒント: GAIN テキストをクリックして値を選択することも可能です。

Apollo Unison インタラクション

プラグインが Apollo の Console アプリケーション内のプリアンプチャンネルの Unison インサートで使用され Apollo が Unison ゲインステージ・モードになっている場合、Apollo のハードウェア・プリアンプノブを使用してこのパラメーターを調整することができます。この状態では、ハードウェア・コントロールに使用可能であることを示すようにパラメーター上にアンバー色のドットが表示されます。詳細については、Apollo ソフトウェアマニュアルの“Unison”の章を参照してください。

コンプレッサーのコントロール

注: ほとんどのチャンネルストリップとは異なり、コンプレッサー・サーキットは、プリアンプ・サーキットの前に配置されています。

サイドチェイン・リンク

プラグインがステレオインで使用されている場合、このスイッチを使用して、両方のチャンネル（左右）のダイナミクス・プロセッサを常に等しい量、または完全に独立してコンプレッションすることができます。モノインで使用すると、このスイッチはリンク側にロックされます。

ヒント: テキストラベルをクリックして目的の設定を選択することができます。

注: この機能は、メインのコンプレッサー・サーキットとディエッサー/リミッター・サーキットの両方に適用されます。

リンク

リンクに設定すると、コンプレッション量は両方のチャンネルで常に同じになります。インプットでのステレオ・イメージは左右どちらかのチャンネルが他方のチャンネルと比較して高いシグナル・ピークを持つ場合、アウトプットでの左右シフトを防止することで保たれます。

セパレート

セパレートに設定すると、発生するコンプレッション量は、両方のチャンネルで完全に独立しています。

注: 片方のチャンネルのシグナル・ピークが他方のチャンネルよりも高い場合、左右のイメージがアウトプットでシフトされてることがあります。

コンプレッサー・バイパス

このスイッチが“COMPRESS 3:1”（上）の位置にある場合、パッシブ・オプトアイソレーター・コンプレッサー・サーキットが接続されます。“BYPASS”（下）の位置にある場合、サーキットは無効になり、他のコンプレッサー・コントロールは無効になります。

ヒント: テキストラベルをクリックして目的の設定を選択することができます。

UAD Meter & Control Panel アプリケーション内の Configuration パネルで DSP LoadLock が無効にされている場合、コンプレッサー・サーキットがバイパスされると UAD-2 DSP 使用量が減少します。

スレッシュホールド

この連続可変コントローラーは、サーキットのインプット・コントロールの後に配置され、インプット・シグナルに適用されるコンプレッション量を決定します。スレッシュホールドを右に回すとスレッシュホールドが下がり、コンプレッションが強くなります。スレッシュホールド値以下のシグナルはコンプレッションされません。

アタック

アタックは、インプット・シグナルがスレッシュホールド・レベルに達した後にコンプレッションが適用されるまでに経過する時間を設定します。Slow、Medium Slow、Medium、Medium Fast、Fast から選択可能です。

ヒント: 値ラベルの左側をクリックして値を選択することができます。

アタックが速ければ速いほど、スレッシュホールドより上のシグナルに速くコンプレッションが適用されます。遅いアタックでは、シグナルのアタック・トランジェント(例: スtringsのプラック)がコンプレッションされずに通過させることができます。

一般的なコンプレッサーとは異なり、VOXBOX による緩やかなリリース設定は、アタックの変更をより明瞭にします。VOXBOX は、アタックがリリースによって設定されたリダクションを上回る“ライド”という珍しい方法で知られています。

リリース

リリースは、インプット・シグナルがスレッシュホールドを下回った後にコンプレッション・プロセッシングが終了するまでに経過する必要のある時間を設定します。ゲインの軽減が 0dB に近づくとリリースタイムが遅くなります。この動作はオプトアイソレーター機能です。

パッシブ・サーキットのインタラクティビティのためにリリースの設定はアタックのスピードに影響を与えることがあることにご注意ください。

ヒント: 値ラベルの右側をクリックして値を選択することができます。

Slow、Medium Slow、Medium、Medium Fast、Fast の 5 種類のレートが使用可能です。各リリース設定は、以下の表で説明するように特定のタイムコンスタンスに対して慎重に調整されます。

レート・セッティング	タイム (Sec)	Notes
Slow	5.0	最も確認しにくいコンプレッションのための非常に遅いリリース
Medium Slow	2.0	ボーカルへの一般的な選択肢
Medium	1.0	オールドの LA-2A のように動作しますが、ドラムやベース用のチューニングもあります。ダイナミックな放送用のオーディオにも適しています。アタックがスローに設定されていると少しバンプします。
Medium Fast	0.5	
Fast	0.3	Manley エレクトロオプティカル・リミッターを再現し、3 ~ 8 dB のコンプレッション・レンジで最適に動作します。

コンプレッサーのリリースタイム

イコライザーのコントロール

EQ バイパス

このスイッチが EQ IN(上)の位置にある場合、パッシブイコライザー・サーキットが接続されます。BYPASS(下)の位置にある場合、サーキットは無効になり、他の EQ コントロールは無効になります。

ヒント: テキストラベルをクリックして目的の設定を選択することが可能です。

UAD Meter & Control Panel アプリケーション内の Configuration パネルで DSP LoadLock が無効になっていると、EQ サーキットをバイパスした場合、UAD-2 DSP の使用量は減少します。

ロー・ピーク

この連続可変ノブは、ロー・フリークエンシー値に適用されるローEQ バンド・ゲインの量を設定します。使用可能な範囲は、0~10 dB です。

ロー・フリークエンシー

このロータリー・スイッチは、イコライザーの低域の周波数を決定します。11 種類の値を選択可能です。(Hz) : 0、35、50、70、100、150、200、300、500、700、1000

ヒント: テキストラベルをクリックして希望の周波数を選択することができます。

注: ロー・ピークが 0dB に設定されている場合、このスイッチは効力を持ちません。

ミッド・ディップ

この連続可変ノブは、ミッド・フリークエンシー値に適用されるミッド EQ バンドに行うカットの量を設定します。使用可能な範囲は、0~10 dB です。

ミッド・フリークエンシー

このロータリー・スイッチは、イコライザーの低域の周波数を決定します。11 種類の値を選択可能です。(Hz, kHz) : 200、300、500、700、1.5K、2K、3K、4K、5K、7K

ヒント: テキストラベルをクリックして希望の周波数を選択することができます。

注: ミッド・ディップが 0dB に設定されている場合、このスイッチは効力を持ちません。

ハイ・ピーク

この連続可変ノブは、ハイ・フリークエンシー値に適用されるローEQ バンド・ゲインの量を設定します。使用可能な範囲は、0~10 dB です。

ハイ・フリークエンシー

このロータリー・スイッチは、イコライザーの高域の周波数を決定します。11 種類の値を選択可能です。(kHz) : 1.5K、2K、3K、4K、5K、6.4K、8K、10K、12K、16K、20K

ヒント: テキストラベルをクリックして希望の周波数を選択することができます。

注: ハイ・ピークが 0dB に設定されている場合、このスイッチは効力を持ちません。

ディエッサー / リミッターのコントロール

ディエッサー・バイパス

このスイッチが DE ESS(上)の位置にある場合、ディエッサー/リミッター・サーキットが動作します。BYPASS(下)の位置にある場合、サーキットは無効になり、ディエッサー/リミッター・コントロールは無効になります。

ヒント: テキストラベルをクリックして目的の値を選択することができます。

UAD Meter & Control Panel アプリケーション内の Configuration パネルで DSP LoadLock が無効になっていると、ディエッサー/リミッター・サーキットをバイパスした場合、UAD-2 DSP の使用量は減少します。

ディエッサー・セレクト

このロータリースイッチは、ダイナミック・コントロールのサイドチェイン・ノッチフィルターの中心周波数を設定します。4 種類のシビランス・フリーケンシー(3K、6K、9K、12K)を使用可能です。この値は、低減したい望ましくない周波数帯の中心に設定してください。

LIMIT 10:1 に設定するとサイドチェイン・ノッチフィルターがバイパスされ、サーキットはエレクトロオプティカル・リミッターとして動作します。

ヒント: テキストラベルをクリックして目的の値を選択することができます。

ディエッサー / リミッター・スレッシュホールド

スレッシュホールドは、ゲインリダクションが有効になるシグナル・レベルを定義することでディエッシング、リミッティングの量をコントロールします。ノブを時計回りに回してスレッシュホールドを下げ、ディエッシング/リミッティングを上げます。

グローバル・コントロール

VU メーター

VU メーターは、サーキット内のいくつかのキーポイントでのアベレージシグナル・レベルとメインコンプレッサー・サーキット、またはディエッサー/リミッター・サーキットでのゲイン・リダクション量を表示することができます。表示されるシグナル・レベルは、メーター・スイッチで設定します。

注: VU メーターは、アベレージ・ラウドネスを表示し、シグナル・ピークは表示しません。

メーター・スイッチ

このスイッチは、どの信号を VU メーターに表示させるかを決定します。

ヒント: テキストラベルをクリックして目的の値を選択することができます。

G-R

メインコンプレッサー・サーキットで発生するゲインリダクション量を表示します。

LINE IN

ソースがラインに設定されている場合、プラグインのインプットでのアベレージ・ラウドネスを表示します。

PREOUT

プリアンプ・サーキットのアウトプットでのアベレージ・ラウドネスを表示します。

EQ OUT

イコライザー・サーキットのアウトプットでのアベレージ・ラウドネスを表示します。

D-S

ディエッサー/リミッター・サーキットのアウトプットでのアベレージ・ラウドネスを表示します。

トランスフォーマー・バイパス

このスイッチが XFMR IN(上)の位置にある場合、アウトプット・シグナルは、アウトプット・トランスを通して送られ、シグナルはわずかに着色されています。バイパス(下)の位置にある場合、トランスはバイパスされ、シグナルはアウトプットに直接送られます。

オリジナルのハードウェアユニットでは、トランスは、バランスアウトプット・サーキット接続をされており、アンバランス・サーキット接続はトランスをバイパスしています。デジタル領域では、このスイッチによって両方のオプションを便利に提供することができます。

ヒント: テキストラベルをクリックして目的の値を選択することができます。

UAD Meter & Control Panel アプリケーション内の Configuration パネルで DSP LoadLock が無効になっている場合、トランスをバイパスすると、UAD-2 DSP の使用量は減少します。

アウトプット

アウトプットは、クリーンなデジタルゲイン・コントロールで、プラグインのアウトプット・シグナルレベルを調整します。使用可能な範囲は、-60 dB ~ +12.0 dB です。

ヒント: テキストラベル“0”をクリックすると値を 0 dB に戻します。

オリジナルのハードウェアには存在しないこのコントロールは、ユニティゲインを維持したり、シグナル全体のカラーを最大にする機能を容易に得ることができます。例えば、アウトプットを使用してレベルをノーマライズしながら、コンプレッションと EQ を好みに合わせて調整することができます。

Apollo の Unison インタラクション

プラグインが、Apollo の Console アプリケーション内のプリアンプ専用の Unison インサートで使用され、Apollo が Unison ゲインステージ・モードである場合、Apollo のハードウェア・プリアンプノブを使用してこのパラメーターを調整することができます。この状態では、緑色のドットがハードウェア・コントロールで使用可能であることを示すようにパラメーターの上に表示されます。詳細については、Apollo ソフトウェア・マニュアルの“Unison”の章を参照してください。

パワー

このスイッチは、プロセッシング前後のシグナルを比較するためにプラグイン全体のバイパスを行いません。オン(上)の位置ではシグナル・プロセッシングがアクティブで、下の位置ではプロセッシングされていないシグナルが聞こえます。

ヒント : UAD Meter & Control Panel アプリケーション内の Configuration パネルで DSP LoadLock が無効になっている場合、パワーがオフになっていると、UAD-2 DSP の使用量は減少します。

追加情報

Manley Labs によってハードウェア用に作成されたオリジナル・ユーザーマニュアルは、VOXBOX の哲学や設計上の決定事項、および使用する上での素晴らしい情報が豊富に含まれています。これは、高度な技術的な情報に興味のある方はご覧になることをお勧めします。マニュアルは、その他の素晴らしい製品についての情報とともに Manley Labs のウェブサイトで見つけることができます。

- www.manley.com/manuals.php



Manley VOXBOX Channel Strip オリジナル・ハードウェア



VOXBOX の視覚と聴覚に関する参照と MANLEY の商標の使用は MANLEY LABORATORIES INCORPORATED 社より書面による許諾を得て行われています。Special thanks to EveAnna Manley and Chuck Zwicky.